

重要

会員へのお知らせ

学会会員殿

「妊娠・分娩回数のかぞえかた」が、2018（平成30）年初頭から統一されます。これは、施設によって異なる「かぞえかた」を統一し、海外の標準的な表現法に合わせるものです。

日本産科婦人科学会の周産期登録データベースへの入力の際、2018（平成30）年1月1日以降の分娩例については、以下の「かぞえかた」に則った数値の入力をお願いします。

また、他施設への診療情報提供書の作成、学会発表や論文の投稿においても、ご留意いただきますよう、お願いします。

1) 妊娠回数のかぞえかた

現在の妊娠を、妊娠回数に算入する。

（「〇妊〇産」と表現し、「経」の文字を使用しない、または、「GOPO」と表現する。）

2) 分娩回数のかぞえかた

妊娠満22週に達した後に娩出したものを分娩回数に算入する。

（周産期登録データベースへの入力については、**分娩後に入力する場合であっても、当該分娩を回数に加えない。**）

3) 多胎における妊娠・分娩回数のかぞえかた

多胎は、何人の児が生まれようとも、それらが多胎妊娠であれば、妊娠回数は「1」、分娩回数も「1」である。

〔周産期登録データベース入力の例〕

- 1 初めて妊娠した女性が、正期産児を出産した。→ 入力は、「1妊0産」、「G1P0」
- 2 過去に妊娠20週での流産を経験した女性が、2回目の妊娠で妊娠30週の早産であった。→ 入力は、「2妊0産」、「G2P0」
- 3 過去に正期産児を経膈分娩した女性の2度目の妊娠が双胎であり、妊娠36週に経膈分娩したが、日をまたいで2日にわたる娩出となった。→ 入力は、「2妊1産」、「G2P1」
その後、再び妊娠し、単胎で正期産となった。→ 入力は、「3妊2産」、「G3P2」

※他施設への診療情報提供書作成に際し、「〇妊〇産」、「GOPO」だけで表現し尽くせないと考えられる事項については、適宜、注釈を補ってください。

平成29年11月7日

公益社団法人日本産科婦人科学会

理事長 藤井 知行

教育委員会委員長 竹下 俊行

教育委員会妊娠分娩回数のかぞえ方

担当 久具 宏司